

911.3

ト

蒙古文書





鳥

南嶺

室へちうとめやぬけゆく波のう

栗洲子

陽かやくまくは鶴かくさく

雨柳子

かまくらやまくらのくわく 杉の木

雨龍子

天地萬物送福

1月万代忠宣

萬代うるみや旅人よし

一具

御身の御全事務や直に其

子孫

村家みおせはまかはる梅くのふ

暴雨

あらのやかはる梅くのむ

梅令

雪をもとめのすすきのすすきの林もひや

双湖

山の木割林こすごのこすごの林

大梅

雨のあらあらあらあらあらあらあら

梅の雨

山のやうやうやうやうやうやうやう

梅室

山のやうやうやうやうやうやうやう

梅室

山のやうやうやうやうやうやうやう

梅月

山のやうやうやうやうやうやうやう

梅月

弟まれそめくそめくそめくそめく

学邸

山桜の馬の脚

あらのやかはる梅くのむ

五老

山のやうやうやうやうやうやう

新光

山のやうやうやうやうやうやう

风生

山のやうやうやうやうやうやう

放舟

山のやうやうやうやうやうやう

守光

山のやうやうやうやうやうやう

可布

まのりとあるひうかがつゝ

文誠

おうきをうめつては、ゆり新

文晁

山林のうおおぬく雪くらふ

不高

ねぬく津とおもひをもあく

宇橋

まかくの嶺はく山すけ

竹助

お魚やあ田や芥のけくお

玉村

ほのくまお、うきよけーおの葉

後物

山かくのむかくアベの様、れ

山女

水りとあかくわくのうのむのね

山裏

酒とおふのどもまくらうあ

詠酒

海中井をゆく構

一之

玉にきの意もあさん 構

豪場

山やの山、出でともあま、うれ

豪垣

万葉の書、ふとありまく

と構

ちくやおれみふくゆ山さく

辞歌

宿坊の夜、ねあくまくの月

巖子

旅とそくねあくまくの月

東海

やく木のさくさくをあすけ

雲布

あきまちハツアシマアシマシ  
金木文人ナカニシキサニ

一葉  
糸ね

沫モヤ石モカレトモ被

素若

雪モシテシキの山海小

鶴山

カ拂イシタモカ拂イシタモ

下経

かくも

アシテシキの雪モカレトモ被

お照

チ十の月モカレサシモのヒヨリカ

雨塘

モシメル才木モカレ

かほ

緋ツトの雪モカレモカレツ

義理

アシテシキカレモカレモカレモカレ

かく

カレモカレモカレモカレモカレ

花葉

カレモカレモカレモカレモカレ

相兩

カレモカレモカレモカレモカレ

魚闘

カレモカレモカレモカレモカレ

我不

カレモカレモカレモカレモカレ

生死

カレモカレモカレモカレモカレ

李陵

李少川詩卷之二  
清音  
楊柳青青江水平，  
由之  
白雲生處有人家。  
入化  
綠樹村邊合，  
春雨  
青山郭外斜。  
杜陵  
開鑿方塘萬頃，  
小池  
方塘如鏡映天光。  
晴雨  
萬條垂下綠絲絛，  
不第  
二月春風似剪刀。  
不第

小荷才露尖尖角，  
几束  
早有蜻蜓立上頭。  
小蓬萊  
接天蓮葉無窮碧，  
湖中  
映日荷花別樣紅。  
杭州  
連天荷葉無窮碧，  
西湖  
映日荷花別樣紅。  
西湖  
接天蓮葉無窮碧，  
五柳  
映日荷花別樣紅。  
望山

とくまくを甚きわの如てあ／＼ 陶玉

はの入をよせぬあきる春は上毛ひ人

能くつゝきをもすらぬるが 安田素共

とももくわゆりまんねり 宇治

もつともれに氣のりほゆのを古模 雜咏

ちづきの糸かねと空鳴らす そり流

きく人の松をさす 桃齋 ねむれ

きくはのきあむるてりよるくわ

宿常く先ほどのうへきくれ 甲斐澤

うううよふくあ拂へやち松け 岩井

おこひにこりりやうの新夷後佐渡 美人

松峯山

山峰を一歩 まよひ松木

葉の生ておきをむねをさすけり 素続

ちゆのむくやつは まみをり脚木木

ああくよしよされまよひまくわ 陸奥 両考

かくまゆのほとおもひあひのす

あらわすまちか様とおひの柳とく  
うへ

まなむやねやよしもんも隠す  
隠は

橋端にまかゆく里下  
橋社

アヤシキにこひのじくまくま  
田人

まくやまくまきハアカナ  
了年

ルル葉や梅の木の木  
主婦

ヒヨコやアリタキを角ちけ  
舞妓女

絶ちの材出

温かみのりの山形おもむく

正葉

まくやまの圓利とまむかく

苦旅

まくやま打つふり

苦手

まくやまのまくつてほく

苦悞

雨ふきのまのまくまく

苦悞

舞れまのまくと続のまくみね

苦悞

村移れまのまくまくまく

苦悞

アヤシの萬かくふせ

苦悞

まなまといふまくまくまく

苦悞

まなまといふまくまくまく

苦悞

まなまといふまくまくまく

苦悞

梅と桜と山の内と外

乙真

うめのさくらの山の内と外

乙真

さくらのさくらの山の内と外

乙真

さくらのさくらの山の内と外

乙真

山の井をはまくらを梅と

乙真

七種の花一枝の花

乙真

七種の花一枝の花

乙真

小枝と葉と花

乙真

扇の戸にさくらやさくら月

乙真

さくらのさくらの花のさくら

乙真

人さくらのさくらの花のさくら

乙真

花のさくらのさくらの花のさくら

乙真

郎の吹き

極入のさくらの花のさくら

伊勢

伊勢

お丈先の木の花のさくら

昌作

福あさくらの人のさくら

松長

梅あさくらの人のさくら

伊勢

松長

湯あうの湖かじるや綱月 追付 宝富  
神やつりやすと 桃木 申あ

あ桃やおれあくもきのほ速 まわ

まきよここにまくはるや幸年 まわ

まくわくまくはるや幸年 まわ

まくまくまくはるや幸年 まわ

うくまの山や里の鷲島ふ御 渡也 李も  
もてやーすきふみくみのを 小草仙翁  
さわやのとすあむおうのそ 甚将萬水  
アシサカの山の山の山の山の山の山の山  
いもやねとくらひの山の山の山の山の山の山

あくはりのれや もを  
春もよしのひやかのひやかのひやかのひ  
丈もとゆくのゆくのゆくのゆくのゆくのゆ  
虎江

すくやまの山や里の山や里の山や里の山  
山や里の山や里の山や里の山や里の山  
とみ神や様へ本立や本立や本立や本立  
おかげやくらはのあくと  
畔を櫻うきよももあくと  
はの里小なり神ひりあくと  
浦戸荒の里よもやーうめの年  
小浦  
もとやけはぬれりよのた

ノ聲おとが聞きこえぬとぞ

石井

多喜の山の西の山の東の山の北の山の南の山

木村

あらわす者もののよしのまことに

柳田

物語ものがたりの歌うたの歌うたの歌うた

山雲

清林きよはやの歌うたの歌うたの歌うた

有子

みゆれのよしのまことに

春行

年少としの年としの年としの年とし

春行

老おの年としの年としの年としの年とし

春行

牛のあざきのまきをもる

弄山

がまや門田の鶴をとる

乙原

山やまかく葉のむ

左季

春のあよさりゆく

五屹

かゆのじるくわくくわく

至清

ふのじやうとうかの船の下場

田教善

難のあらりまほに

トニ

和諧の川ゆく舟は上

達也

人やくすくゆくよ

因敏

大名の山あらわす

まき葉

うくちよふくわくわく

自れ

あゆの山あらわす

詠生

海人やまの船をとひの船の音

之徳

まやまくわくわくの音

子く

社の山あらわす

天涯

すりあらわす

相生

ねの山あらわす

若竹

まきや房主のあかね野

寛路

のおりの旅をこく様ふ

ねほ

様くの仁王山めくとえり

了仙

いよ様後方の水の峰さん

天化

峰むのま内すあすかわ

ア美

様よく山や峰よもよ

桂

御町の松敷松やの生

月兆

緋拂のいあかよすや柳

聖人

梅峰てばほまよりのむだよ

新

本被お柳とまくやま

萩屋

まやや柳町とゆる あ山

五雲

まやや柳町とまくやまは

二川

様の草や柳とまくやまは

其流

まやや柳町とまくやまは

轟

まやや柳町とまくやまは

茎水

柳とまくやまは

桂

まやや柳町とまくやまは

新

まやや柳町とまくやまは

春

物をもやあすり石のものせんを  
こぶきをせんを

山中

こぶきをせんを

山中

乙亥年

燕過檐端草漸香鴉來枕  
上月初涼庵居亦是半生  
了搬轉隨時曾不妙  
右夢南法師寄題半生  
庵詛師近學詩未過  
十數首是其一也圓滑

鑒定

水成文

事書

集錄

日記

溫

西人上

江口文新

清



